

## 令和元年度第2回秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和2年1月31日（金）午後1時から2時30分まで
会場	秋葉区役所601 602会議室
出席者	秋葉区自治協議会役員20名 教育委員：田中教育委員 渡邊教育委員 事務局：教育総務課長，地域教育推進課補佐，学校支援課補佐，秋葉区教育支援センター所長，指導主事2名 秋葉区役所：新津地区公民館長，新津図書館長 発表者：3名（秋葉警察署 森田様 ぴいす金津 和氣様 中野様） 傍聴者：3名（報道1名 他2名）
議事	1 開会 2 教育委員挨拶
田中教育委員	一昨年の5月になりますが、新潟市西区の小学2年生の女子が殺害された事件、これにつきましては、教育に携わる者の一人といたしまして、本当に深い悲しみと強い憤りがまだ癒えぬものであります。あの事件以来、新潟市内の小中学校区では、防犯カメラや防犯灯が設置され、また地域の方々による見守り隊も充実、強化されてきました。そうした中で、昨年の5月、川崎市の多摩区で登校途中のスクールバスが襲われまして、20人もの児童が殺傷されるという事件が起きたわけであります。今のこの時代、安全な日本と言っても、日本各地いづどこで何が起きるか分からない。こういう思いがしております。 本日は、「地域の力で子どもたちの安全を守るために」というテーマのもと、地域として、大人として何ができるのか、これを考えることになっております。ぜひ多くのことを学ばせていただき、安心・安全な学校、そして安心・安全な地域づくりのためにより一層取り組んでまいりたいと、このように考えております。
渡邊教育委員	今回の「地域の力で子どもたちの安全を守るために」というテーマで教育ミーティングを開かせていただきますが、その中で大変盛沢山な話題、そして実践発表は資料も事前にいただいておりますが、西区の事件から大変短い時間の間に形になった実践ということで、そこから学ぶことが大変多いのではないかと思います、今日、こちらにまいりました。グループディスカッションは、時間がかかなり短くなりますが、どうぞ皆さん、たくさんの意見交換をし、またお互いに学び合うものが多い機会になるといいと期待しております。
学校支援課 山田課長補佐	3 令和元年度全国学力学習状況調査の結果説明

<p>秋葉警察署生活安全課スクールサポーター 森田 様</p>	<p>4 秋葉区による不審者情報の状況報告</p> <p>不審者情報の状況ですが、平成 30 年 1 月 1 日から 12 月末までの統計数字を引っ張ってきました。これから申し上げる数字は、事件性が非常に強いような前兆事案ということでお話ししますが、平成 30 年は、県内全部で 836 件でした。秋葉警察署は 19 件。平成 31 年、令和元年は 777 件で少し減りました。ところが、秋葉警察署は 34 件、増えました。これは、去年の統計は、実はまだ不確定です。2 月にならないと確定しませんので、この 777 件と 34 件というのは、大体そのくらいのものだといいことで理解していただければと思います。</p> <p>それから、先ほど言った事件性が強いもの以外でも、やはり一昨年 of 西区の事件、それから各学校で通学路の安全対策の会議を行い、地域の方、それから生徒自身も、問題意識、警戒感をもっていただきました。そのおかげで、いわゆる警察への不審者事案の届け出、これが、先ほどの数字に表れています。平成 30 年は 28 件、平成 31 年と令和元年、これが 45 件、この数は、いわゆる未成年者が被害に遭ったというか、はっきりと被害とは言えませんが、小学生、中学生、高校生、専門学校生、そういった人たちがそういう行為を何かされたという数でございます。ということ、やはり少し増えているというようなことです。</p> <p>私が気づくのは、やはり一昨年の学校と地域を巻き込んだ、いわゆる不審者の対応ということとを、本当に市民の方はもちろん、今日参加の皆さん方も関心を非常に高くもっていただいているのではないかと思います。子どもからの届け出も、例えば土曜日の夕方発生すると、大体警察に情報が入ってくるのは月曜日なのです。もうその段階では、我々が行っても、そこには不審者はいないわけです。ところが、去年のころから、即、警察に情報が提供されるようになりました。ですから、その数も含めて、やはり増えてきているのだと思います。関心が非常に高くなっていますし、地域の方も子どもを守ろうという意識を高くしていただいているのだなということを実感しております。</p> <p>後で事例紹介ということでびいす金津の方がお話しされますが、本当にその事件を契機に、いろいろな学校での会議をやって、金津地区において非常に先進的で、ほかの県にもないような防犯活動、子どもを守る防犯活動をやってくださっております。これは、本当に我々も非常に期待していますし、ほかの市町村も非常に関心を高く、このびいす金津の活動を見ているという状況がありますので、その辺もぜひ参考にさせていただいて、皆さん方も引き続き防犯意識をもっていただいて、とにかく防犯、一番大事なのは、皆さん方の目になりますので、やはり悪いことをしようとしている人は、目を、誰かに見られているということ、犯行を抑える一番の大事なことになると思います。</p>
<p>びいす金津 和氣 様</p>	<p>5 地域における防犯活動の実践発表</p> <p>本日は、実践発表の機会をいただきまして、本当にありがとうございます。貴重なお時間をいただいているのプレゼンでございますので、ぜひ皆様のお役に立てるよう</p>

な情報を提供できればと思っておりますので、最後までどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど森田さんから紹介があったのですけれども、こちら、スマホのアプリでヤフーマップというところに防犯マップというものが出ております。これは、実際、一番左の画面が、青いところが実は私の自宅なのですけれども、秋葉区内、今、過去2年間で14件、これはある団体が出しているのですけれども、14件あります。いろいろなマークが出ていまして、実は金津地区がこの辺になるのですけれども、そこをクリックいたしますと、この右の二つになります。これは、昨年5月30日暴行ということと、こちらは同じく5月29日痴漢ということで、こちらは子どもが容疑者の特徴を押さえておいて通報して、検挙まで至ったということがありますし、新聞報道等もされましたが、実は、我々の活動を始める直前に、金津小学校区内の児童がわいせつ目的で誘拐されて、犯人が逮捕されているという事案も実際に起きております。

そのようなことがきっかけで、我々、当時は同じ小学校のPTAをやっていたので、当事者意識をもって、どうしたらいいのだろうといったことで始めたのがこのびいす金津になります。これから中野の発表を行わせていただきます。よろしくお願いいたします。

びいす金津  
中野 様

先ほど、一昨年5月の西区の事件のお話がありましたけれども、そこで犠牲になった小学校2年生の女の子、実は私にも同じ歳の子どもがおりまして、本当に他人事ではないという気持ちでした。そして、私も大学生のころ、東京に住んでいたときの話なのですが、後ろから急に口を塞がれるという被害に遭ったことがありまして、本当に他人事ではないというよりも、本当に誰にでも起こることだと自分で実感していますので、今回の防犯活動をするきっかけにもなったと言えます。

全国各地でいろいろな防犯活動が行われています。通学路の安全を守るため、そして子どもたちの命を守るために何が一番重要なのかというのは、手段ではなくて、結局はその地域の人たちの一人一人の気持ちが大変だと思うのです。防犯意識、高いというだけではなくて、西区のような事件が起こりますと高くはなりますが、人の気持ちというのは変わりやすいもので、時間が経つにつれてどうしても薄れていってしまうのです。ですので、防犯意識の継続ということが、子どもたちの命を守るためにはもっとも重要なことなのではないかと、私たちは考えています。

その視点から生まれたのが、現在行っております「地域で見守りプロジェクトびいす金津」という活動になります。まず、この「びいす」という名前なのですけれども、PTAのPに椅子を組み合わせた名前ということで、PTAが主体となりまして、そこに地域の皆さん、そして学校のご協力をいただいて活動をさせていただいております。そして、椅子を使った防犯活動ということで、全国的にみても大変珍しいそうです。おかげさまで、県の内外から注目をいただいております。

そして、この活動について簡単にご説明させていただきますと、まずホットスポ

ットと言われる犯罪が起きやすい条件の場所があるのです。その犯罪が起きやすいホットスポットに、人の手で色が塗られた、管理された椅子を設置することによって、普段は人気の感じられない場所を人気の感じられる場所に変えていこう。まず、環境を変えようということです。そして、椅子なので、地域の皆さんに自由に座っていただくことによって、見守りをしていただこう。そういった活動になるわけなのです。きっかけは、一昨年の西区の事件でした。それを受けまして、私ども金津地域でも13年ぶりに防犯マップの見直しを行いました。ですが、防犯マップをお金をかけて、時間もかけて作って配ったとしても、本当に子どもたちの命をこれだけで守れるのかなという疑問が、正直、私の中にあつたのです。そのもやもやした状態の中で出会ったのが、犯罪機械論というものと、東京の吉祥寺で行われている赤い椅子プロジェクト、この二つだったのです。

まず、犯罪機械論についてご説明をさせていただきますと、これから犯罪を起こそうとする、いわゆる不審者と言われる人は見目で判断することはできません。ですが、犯罪が起きやすい場所というのは共通点がありまして、世界的な基準があるのです。それが、犯罪機械論、人ではなくて場所に注目した考え方です。その主なホットスポットと言われるものが、入りやすく見えにくい場所、そして人の気配の感じられない放置された印象を与える場所、これが割れ窓理論と言われているものなのですけれども、こういった場所が主に犯罪が起きやすいと言われています。

一方、吉祥寺で行われている赤い椅子プロジェクトというのは、実は防犯とはまったく関係ありませんで、商店街の活性化を目的としたプロジェクトなのです。不要になった木製の椅子を募集して集めてきまして、地域の皆さんでワークショップを開いて赤いペンキで色を塗ります。その赤く塗られた椅子を商店街の店先に置いてもらって、ご自由にお座りくださいということで設置することによって、この椅子をとおして吉祥寺、住む人、訪れる人、商売をする人を結びつけていこうという、そういった取り組みになります。

私、たまたまこれをSNSで知りまして、このような赤い椅子プロジェクトのような椅子を犯罪機械論で言うホットスポットに置いてみたら、もしかして防犯効果があるかもしれないと考えたところから生まれたのが、今、私どもがやっておりますびいす金津の活動ということになります。活動内容としては、赤い椅子プロジェクトとほぼ同じです。集める、塗る、座る、この三つの工程です。そしてその後を知る、守りでしたでしょうか、もう一つ工程が後で加わったのですけれども、基本的には集める、塗る、座るの三つになります。

まだ1年経っていないのですけれども、どういう活動をしてきたのかということ振り返りながら、詳しい活動内容をご説明させていただきたいと思います。私が発案したのが一昨年の7月になりまして、その後、10月に犯罪学の第一人者でいらっしゃる立正大学の小宮信夫教授に連絡をとらせていただいて、こういうアイデアがあるのですけれども、専門家から見てどうですかということでご相談をさせていただきました。ホットスポット対策として大変いいのではないかというお墨

付きをいただきました。そして、12月にたまたま東京に行く用事がありましたので、吉祥寺の赤い椅子プロジェクトのスタッフの皆さんにもお会いいたしまして、少し真似するような感じになりますので一応了承を得ようと思ひましてお話をさせていただいて、小宮教授にも赤い椅子プロジェクトにも了解が得られたということで、翌年の3月、去年の3月の末から本格的に活動を開始いたしました。

まずは木製の椅子の募集ということで、直前にフェイスブックページなども立ち上げて告知はしたのですが、始めたばかりということでなかなか最初は椅子が集まりません、最初、3月31日に椅子募集で小学校の体育館で待機していたのですが、1脚も集まらなかったのです。この先大丈夫かと思っていたのですが、4月27日、初めて塗装イベントを開催させていただきました。その間に椅子が集まってきて、地域の皆さん26名の方にご参加いただいて、椅子を塗装するという作業をいたしました。この塗装イベントにも意味がありまして、最初にも言いましたが、人の気持ちの継続、防犯意識の継続ということが大事なので、この塗装イベントを毎年開催して、毎年参加してもらうことによって防犯意識を再認識し、継続していきたいという狙いがあります。私どもの場合は、赤ではなくて椅子をオレンジ色に塗っているのです。セーフティスタッフのジャンパーの色がオレンジ色ということで、安心・安全の色ということで、子どもたちにも馴染みのある色だという理由でオレンジ色に塗りました。それから、5月3日から椅子を徐々にホットスポットに設置し始めました。実は、このプロジェクトを急いだのには理由がありまして、その西区の事件が5月9日だったので、1年経つそのときまでに何とか椅子を設置したいということで、プロジェクトの活動も急がせていただいたという理由があります。テレビ局ですとか、新聞社とか、そういったところにも取材に来ていただきました。現在、金津地区で設置されている椅子は、13脚になります。防犯マップに記載されているホットスポットが23か所ありますので、まだ椅子が足りないという状態です。

そしてその後、7月19日、子どもたちがちょうど夏休み前の集団下校の日だったのですが、小学校からご協力をいただきまして、地域安全マップ作りのフィールドワークというものを実施いたしました。これはどういうことかと言うと、子どもたちのための、子どもたちによる子どもたちのための安全マップ作りというものをやったのです。小宮教授にもアドバイスをいただきまして、やはり子ども自身が、守られるというだけではなくて、自分自身でどういうところが危険な場所なのか、ホットスポットなのかということを見極める目がなければ、自分自身の身を守ることができないということで、景色解読能力というそうなのですが、それを育てることがまた防犯につながるということでアドバイスをいただきましたので、子どもたちの安全マップ作りをさせていただきました。普段何気なく歩いている通学路を、このときは入りやすく見えにくい場所という視点で子どもたちに歩いてもらいまして、その現場の写真を撮ってもらったりチェックしてもらったりして、立派な防犯マップ、安全、マップができまして、数日後、全校朝会で全校の前で発表してい

ただくということにしました。子どもたちの安全マップ、すごいところは、大人が作る安全マップというのは、例えば公民館ですとか、公共の施設とかが目印になるのですけれども、子どもが作るマップは、何々さんのお家というものが目印になっているのです。それを見て、やはりこれこそが子どもが分かるマップなのだと感じました。これについては、本当にすごくいい取り組みだったと思っていますので、毎年、学校からのご協力をいただいて開催したいと考えています。

そして11月30日に、実は椅子を一時撤去しているのです。なぜかというと、冬、雪に備えて、万が一雪に埋もれて地域住民の方に迷惑をかけたり壊れたりするといけないということで撤去させていただいたのですが、今年に限っては雪がまったく降らなかったの、撤去しなくてもよかったかなと思っています。

効果なのですけれども、先ほど森田さんからもお話があったとおり、このような活動をしたことによって、大変この金津地域では不審者情報が逆に多くなりました。多くなったというのは、先ほどの話にもあったとおり、防犯意識が上がったということなのです。子どもたちも、ピリピリしているわけではないのですけれども、常に頭の中で防犯とか入りやすく見えにくい場所という、そういったキーワードが入ってくれたおかげかなと思っています。防犯活動として広く認知されたということはありますけれども、これは割と地元ではまだ知られていない活動でして、これから皆さんに知っていただくということも一つの課題かなと思っています。

まとめなのですけれども、最初にも言いました、大切なのは人の気持ちだと思っています。私たち、椅子を使った防犯活動ですが、大事なのは椅子という手段ではなくて、いかに地域の皆さんが子どもたちを守ろうという気持ちをもってくださるか、そしてそれをずっと維持していただけるかということが大切だと思っています。この椅子は、地域のいろいろなところでこれから目にすることになると思いますが、その目に入るたびに防犯ということ意識してもらえれば、思い出していただければいいなと思っています。現在、13か所、13脚設置いたしました。まだ椅子が足りませんが、今後、今のところホットスポット1か所につき1脚椅子を設置しているのですが、今後もっと椅子が集まってくれば、1脚ではなく、同じ個所に2脚、3脚と置くことによって、そこで人々の会話が生まれて、人々がそこで滞在する、留まるということになるかと思っています。そうすると、もともとは人気のないホットスポットだった場所が、椅子を置いたことによって人が集う場所になったり、会話が生まれる場所になったりということで、危険だった場所が安全になるのではないかと希望をもって、まだ活動を始めて1年経っていないのですけれども、このような希望をもって頑張っております。

**【質問】**

椅子を設置されて、今は取り外してしまわれているのですけれども、設置してこの夏場でしょうか、子どもたちとか地域の方々とか、座っている状況というのはどのような感じだったでしょうか。

自治協役員

<p>びいす金津 中野</p>	<p>私自身は直接目撃したことがないのですけれども、地元の警察官の方ですとか、地域の方は座っている様子をご覧になった方がけっこういらっしゃって、お知らせしていただいています。やはり1脚しかないので、地元のおばあちゃんたちが、譲り合ってその1脚に座ってもらっているというような状況です。</p>
<p>自治協役員</p>	<p>びいす金津というのは、PTAとどういにかわりがあるのでしょうか。団体として。</p>
<p>びいす金津 中野</p>	<p>私が昨年度のPTA会長のときに発案させていただいてこのような活動に結びついたということだったので、呼びかけも、実はPTAの保護者の皆さんに最初に呼びかけたところから始まっている活動なのです。実は、PTA活動というと、補助金とか何かそういったいろいろな面でお金も一応かかる活動になりますので、補助金だけではなかなか難しいと。地域の方々からいろいろ寄付をさせていただいて活動をさせていただくことになりましたので、寄付をいただくとPTA活動とはみなされない。PTA活動には入らないということなので、PTAとは少し独立したといえますか、任意団体になります。PTAと地域と学校というのが協働して活動できるような任意団体として、一応主体はPTAということなのですけれども、その三者でやっている活動になります。</p>
<p>自治協役員</p>	<p>ありがとうございました。そうすると、PTAの中で、PTAとして動くというのはなかなか難しいところがあるけれども、そこから派生して一つ別の団体を立ち上げる力があるかどうかというあたりが、ほかのところが真似をしようとすると必要なかなという感じがするのだけれども、その辺はどうですか。</p>
<p>びいす金津 中野</p>	<p>実は、この活動に関しては、ご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、テレビ新潟でも10分間の枠で放送してもらったのです。なぜこれが注目をいただいているか、取材に来ていただけたかと言いますと、保護者が主体となってやっている防犯活動というものが珍しいそうなのです。大体防犯活動というのは、地域が主体となってやっていること、ですが、保護者がメインでやっているということがなかなかほかにはない活動だということなので、やはり保護者、PTAという団体と言いますか、それは欠かせないものになるので、PTAからあまり外れたくはないというのが正直なところです。</p>
<p>自治協役員</p>	<p>私どもコミュニティ協議会でも、今、自学教室というものを、社会福祉協議会から補助をもらって学校でやっているのですけれども、はっきり言って、PTAも青少年健全育成会というものもあるのですけれども、まったく関与していないというか、やっていることも知らないのではないかという感じがするのです。私どもが考えると、本来、これはPTAが先に声を出して、何とかしてくれないかとか、一緒に考えていくような事案であっても、何か昔からずっと続いているようなPTAとか</p>

<p>自治協役員</p>	<p>そういった団体でも、何か形骸的な行事をこなすだけの様な気がするものですから、素晴らしい金津の皆さんの、金津の皆さんというの、中野さんと和氣さんのお二人の力なのかなと思って、非常に興味してお聞きいたしました。ありがとうございました。</p> <p>6 グループディスカッションまとめ</p> <p>【1グループ】</p> <p>まず、アイディアなのですけれども、パトルール中の看板やステッカーをPTAの方、地域の方にお手紙でお願いしてつけていただく。それから、危険な場を意識する、見て回る、認識し合うということが大事ではないかというお話が出ました。今、大体痴漢が出やすい場所とか不審者情報が出やすい場所、それから交通事故が起きやすい場所等のマップをそれぞれの学校等で作成してはいるのですけれども、その場所を地域の住民が知っているかどうかということが大事なのではないかというお話がありました。また、犬の散歩をする方にジャンパーを配布する。北区で「ワンワンパトロール」というものがあるように、新津では実施してみてもどうかというお話がありました。また、玄関等を点けておく協力依頼を皆さん、住宅にしてはどうかというお話がありました。今、非常に住宅街などは朝から夕方までお仕事をされている方がいて、夜は暗くなるまで家に帰ってこない方がいるのですけれども、そういう方にも協力依頼をして、明るいまちづくりというものがいいのではないかというお話がありました。</p> <p>また、できればPTAから率先していただいて、自ら声を出してほしいという意見がありました。声を出してほしいが、忙しい、なかなか率先してくれないということが課題ではないかというのがあります。また、荻川ではオレンジのジャンパーを貸与しているということなのですけれども、着用が少ないということで、ジャンパーを貸し出ししても着てくれるというチャンスが少ないのではないかというお話もありました。小学校単位で子ども110番に協力していただいているのですけれども、子ども110番を子ども自身が知っているのか、学校、地域で子ども自身が知っているかどうかの調査をしてもらったほうがいいのではないかという意見もありました。また、個人の関係同士が薄くなってきているため、表札が出ていない住宅が非常に多いということもありまして、地域の関係性が密な田舎ほど、こういう事件や事故が少ないのではないかというようなご意見もありました。</p>
<p>自治協役員</p>	<p>【第2グループ】</p> <p>第2グループもいろいろな意見が出たのですけれども、やはり下校時の見守りということがなかなかできていない。朝はセーフティスタッフとか地域の方が、同じ時間帯でするので出てこられるのですけれども、下校時がなかなか出てこられない。結局は自治協議会やコミュニティ協議会の団体をお願いをしてという形なのですけれども、それもなかなか難しかったりするというので、私が住んでいる地域では、とにかく下校時、子どもたちの声が聞こえたら玄関先に出てもいいというよう</p>



	<p>な、自治会長からの回覧などが回ってきていたのです。でも、それは一部の人であって、その出られるというか、そこに参加するということがなかなか個人としては一歩踏み出すのが難しいのかなということです。</p> <p>私の意見としまして、学校では、毎年1年生が体験型安全教室をやるのです。子ども110番が近かったらそこに駆け込むのだよとか、不審者が出たらまずはランドセルを脱いで一番近いお友達の家なり、家が遠かったらすぐ近くのそういうところに、お店でも飛び込むのだよということを教えてあげているのですけれども、地域の方ももう少し意識をもたなければいけないのかなと。それから、地域によっては、まったく対策が違ってくるのかなという、それを統一するのはなかなか難しいと思いました。以上です。</p>
自治協役員	<p><b>【第3グループ】</b></p> <p>皆さんから朝の交通安全の見守りとか、そういうものは、本当にどこの地域でも一生懸命にやられているということが出されました。そして実際に、田井地域で、若い見知らぬ風貌の方が壁の修理をしているようなところにいらして、一人暮らしのお宅にいろいろな工事を幹旋したりしているので、どうもおかしいということで自治協議会の委員の方がついて行って尋ねたり、それを警察に連絡をしたりしました。子どももそういう被害に遭う危険があるとのお話がありました。それから、小学校は明るいうちに登下校できるのですけれども、中学になると部活が終わって暗い道を通って帰ります。そして一番最短距離で家に帰りたいという思いで、それこそ暗いところを帰ってきて、そういうところに不審者が潜んでいます。私も孫に実際そのことを聞かされて、明るい道を通るようにと話しました。いろいろなホットスポットがあちらこちらにあるということ、やはりそういうものも皆さんで共有していかないとだめだということです。それから少子高齢でなかなか若い人たちは日中働いていて、防犯活動とか安全活動にはなかなか参加できない。地域にいらっしゃる高齢の方は、けっこう時間が余っていると。だから、その地域の人とPTAで楽しい行事をして、バーベキュー大会とかを取り組んで、子どもたちと地域の方が顔見知りになることで、信頼関係を築きます。そして、声をかけても隣のおじいさんとか、あそこのお爺ちゃんだというように、安心・安全な地域づくりがこれから大事なのではないかというお話もなされました。そのようなことで、これからも地域とPTAと一緒に何かをやっていく行事を考えたり、話し合いの場をもつことが大事なのではないかという意見が出されました。</p>
渡邊教育委員	<p>7 教育委員の感想</p> <p>まずは、貴重な実践発表をいただきまして、また新しい情報を私も知ることができましたし、皆さんもそれぞれ学ぶところがあったのではないかと思います。そして、その後のグループディスカッションで、私は1グループで聞かせていただきました。全部聞くことはできなかったのですけれども、皆さんの思いですとか、それ</p>

それのところで実際にこういった取り組みをしているというような活発なご意見がたくさん出て、それを聞いていて、今日はとても胸が熱くなる思いでした。本当にどうやって子どもたちの安全を守るかということに関して、本当に皆さんがそれぞれの思いがあるということが確認できました。そして、その中で、実際に皆さんそれぞれ大変忙しい中でできることをやっていたら、また情報や思いを共有しながらやっていきたいということがあるということを大変感じました。そして、その中で出てきた一つ大事なキーワードとして、主体的に取り組めるといいのだなということをお私としては感じました。それは、地域の方もそうですが、PTA、そして子どもたちも自分たちが主体的に取り組めるように、そしてグループ1では、確か学校が核となってくれれば皆さんがつながりやすいのではないかというご意見も出ていて、それもそのとおりで感じました。びいす金津の話の中でも出てきたように、継続できるといいよねということが、やはりこれからとても大切かなと感じました。そのやり方は、手段はそれぞれいろいろで、具体的な活動の継続だったり、話し合う、そういった会合の継続であったり、いろいろな形があると思うのですが、本当に団体に入っていないくても、市民の一人としても主体的にかかわっていただけるようになることが一番なのかなということをお、今日は改めて学ばせていただきました。大変ありがとうございました。

田中教育委員

本当に今日は貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。委員が言っておられましたけれども、秋葉区の人たちは、地域の子どもは地域で守ろうとする意識が強い。これは、まさにそうだなということを感じます。私も若いころ、二十何年前にこの秋葉区に勤めたことがあるのですが、本当に当時から、旧新津市でしたけれども、新津の子どもは新津の地で育てるのだと、育てていくのだという気持ちが大変強くございました。今もその気持ちがずっとつながっているのだなということを感じた次第であります。そして、1グループの先ほどのご報告にありましたように、地域の関係性が密なところほど事件が少ない。本当にそう思います。やはり普段から地域の人同士のつながり、心のつながりであったり、あるいは顔の見える関係、これがしっかりできているということがとても大事なのだなと。今日、いくつもそういうお話が出ておりました。お互いに相手のことを知っているが故に、何か心配ごとがあったらすぐ人に言える。隣のお爺ちゃん、おばあちゃんに伝える。そういうことが普段からやれているということがとても大事なのだらうと思うのです。この新潟市内では、中学校区単位で昨年、一昨年と2年間、防災教育について話し合いを進めてきました。やはりそこでも顔の見える関係ということが、どの地域からも非常に言われていました。やはり何か事件が起こったとき、あるいは何か災害が起きたときに、この地域で顔の見える関係、すぐ声かけられる関係、こういう人間性がつくられていくということがとても大事なのだなと思いますし、まさに今この秋葉区では、そういう関係がより一層強まっている。そして今日お話しいただいたびいす金津のこの取り組みをおとして、より

一層人とのつながりができているのだなど、こう思いました。2グループの佐藤委員が言っておられましたけれども、子どもを守ろうとする、あるいは何かしようとする、そういう人の気持ちが大事なのです。その気持ちをもつということが第一歩につながっていくのだということでありまして、齋藤委員が言っておられました実際に行動に移す勇気、これが大事なのです。こういうお話がありました。まさにそうだなと思います。びいす金津の中野さんが言っておられましたけれども、大事なのは手段ではないのだと。地域の人の子どもたちを守ろうとする、その思いが一番なのです。まさにそのとおりだなと、こう思いました。本当に勉強になりました。ありがとうございました。

8 閉会

# 令和元年度 第2回 秋葉区教育ミーティング



A K I H A  
S u m u  
P R O J E C T

## 教育ミーティングの ねらい

教育委員が、区の特性  
や地域における実情を把握し、教育施策に反映できる体制づくりをめざす。

## 秋葉区テーマ

地域の力で  
子どもの安全を守るには



令和2年 1月 31日(金)  
会場:秋葉区役所 6階

## 令和元年度 第2回秋葉区教育ミーティング

日時：令和2年1月31日（金）午後1時～2時30分

場所：秋葉区役所6階

### 次 第

- 1 開 会 13:00～13:01
- 2 教育委員挨拶 13:01～13:03
- 3 出席者紹介 13:03～13:05
- 4 令和元年度全国学力・学習状況調査報告 13:05～13:15  
学校支援課 課長補佐 山田 哲哉
- 5 秋葉区の不審者情報の状況報告 13:15～13:20  
秋葉警察署生活安全課 スクールパートナー 森田 淳 様
- 6 実践発表 13:20～13:40  
ぴいす金津 中野 妙 様 和氣 彰 様
- 7 グループディスカッション 13:40～14:20  
テーマ「地域で子どもの安全をどう守るか」
- 8 教育委員の感想 14:20～14:25
- 9 閉 会 14:25～14:30

■登下校中の子どもたちの安全・安心が守られているか不安を感じている。

- ①いつ、だれが(who,when)・・・
- ②どこで(where)・・・
- ③どうやって(how)・・・

**問題**

**【主題】**

通学路の安全を守るために住民、児童、そして地域全体の防犯意識を継続させるためにはどうすればよいか？

■犯罪抑止には犯罪機会論で効果のある対策を！

**解決策**

- ①犯罪の起こりやすい場所
- ②ホットスポットに椅子を置く
- ③当事者意識醸成（住民・児童）

**想定される効果**

■防げるものは自分たちで防ぐ（未然防止）

- ①犯罪企図者が犯行を躊躇する環境
- ②防犯に対する当事者意識
- ③地域の現状を共有

■「生活の質」の向上を目指し、防犯活動からまちづくりへ

**今後の課題**

- ①防犯意識の継続
- ②子どもの危機回避能力向上
- ③まちづくりのための椅子利用へ

## 1 グループ

### (1) 現状

〈山の手コミ協〉

- ・見守りベンチ約10台設置（置き場所の融通が難しい）

〈中央コミ協〉

- ・防犯防災部で子どもの見守り活動を実施（月1回くらいなので増やしていきたい）
- ・朝に通学路の見守りをしている地区もある（PTAの意識が低い）

〈東部コミ協〉

- ・町内役員が下校時に見守りを実施

○地区のPTAが、毎年組織が変わるために苦労がある。

- ・登下校時は働いているので時間がとれない

○交通事故防止のためのパトロール隊（警察退職者の協力を仰ぎたい）

### (2) アイディア

○「パトロール中」などと書かれたステッカーの掲示

○防犯情報を共有

○犬の散歩をしている方からパトロールをしてもらう。（ジャンパーの着用）

- ・ウォーキング、サイクリング、通勤者にもお願いする。

○個人宅レベルでも防犯意識を高める。（防犯灯の設置）

○子供110番協力者をもっと活用

### (3) 課題

○カメラの設置

○ライト

○人員の確保

○学校とPTAと連携できるようにする

○住民同士の関係が密になるようにする

## 2 グループ

### (1) 現状

- ・年に1回小学校でセーフティスタッフと児童との顔合わせ会を行って、意識を高めている。
- ・青パトの巡視（月2～3回）
- ・登下校時の見守り
- ・ながらパトロール（ステッカーの配付）
- ・子ども110番の見直し

## (2) アイディア

- ・新旧 PTA メンバーの交流会
- ・楽しい活動からつながりを深める
- ・防犯と防災を組み合わせる
- ・自治会長の意識を高める（ベスト配付）
- ・情報共有システム

## (3) 課題

- ・住民の防犯意識の高まり，当事者意識をどう高めるか
- ・継続以前の問題で，他人事になっていないか
- ・資金，パンパワー不足

# 3 グループ

## (1) 現状

- 地域と P T A で見守り活動 あいさつ運動（小合中）
- 防犯を兼ねて，交通安全指導（二小校区）
- 外国人と思われる不審者が高齢者宅を狙っている（警察へパトロールを依頼）
- 登下校の見回り（三小校区）
- 帰宅路で暗いところが
- コミ協単位で活動が活発

## (2) アイディア

- 防犯ジャンパーを作成
- 子どもたちと情報共有
- P T A と地域との交流が少ない
- 若い人が多い町内 仕事で忙しい
- P T A との接点
- ・コミ協，町内会の皆さんが平日の子どもの見守り 土日に P T A が地域の行事に参加